



## NEXT! 「学級開き入門」に45人が参加!

4月5日、市教組NEXT!が大阪市教育会館東館にて、「学級開き入門」～子どもたちとの出会いを楽しもう～をテーマに学習会を開催しました。講師として立命館小教諭の丸岡慎弥さんをお招きし、新年度の「学級開き」で大切にしたいことについて語っていただきました。以下は当日の内容の抜粋です。



### 1. 教員のあり方と学級経営

情報化社会である。SNS や AI の普及により情報が溢れ、教員自身も情報を発信できる時代になった。このような状況では、自分にとって何が大事かという軸（価値観）を自覚していないと、情報選択ができず行動できなくなる。

自分がどう生きるか、何を大事にするかを自覚することは、学級作りから学校作りまで、あらゆる仕事の基礎となる。豊富な情報から必要なものを掴むためにも、自己の価値観の明確化が不可欠である。

### 2. 学級作りの心構えと困難への対処

「一年間全く問題が起きないクラスはない」。良い時も悪い時もある「大航海」のように波があるのが当たり前である。問題行動やトラブル（ピンチ）は、子どもたちに大切なことを伝える絶好の機会（チャンス）である。例えば、掃除をサボる子には「先生がいない時こそ力を発揮するチャンスだ」と伝えることができる。このマインドセットを持つためには、教育者自身が「何を伝えたいか」という明確な考えを持つ必要がある。

### 3. 価値観を明確にし、伝えるためのワークショップ



NTTが開発した「ウェルビーイングカード」というツールがある。大切にしたい価値観を3つ選び、その理由を言語化・共有するワークを実施。自己理解を深めると共に、他者の価値観から学ぶことを促すことができる。選んだ3つの価値観から、学級開きの初日に伝えたい1つのメッセージに絞り込む。そのメッセージを伝えるために、絵本、自身のエピソード、名言などと組み合わせることで、子どもたちに伝わりやすくなる。

### 【参加者の選択例】

例1) 「愛」「平和」「日常」：低学年担任の経験から「愛」を選び、そこから「平和」「楽しい日常」へと繋げたい。

例2) 「感謝」：人との繋がりの大切さから「感謝」を選び、「ありがとう」の語源「有り難い」から当たり前のことへの感謝を。

◎実践例：「人生に地図もナビもない。だから( )が必要だ」というポスターの空欄を子どもたちに考えさせる。「夢」という答えを提示し、その意味について対話を深める導入例を講師の丸岡さんが紹介された。



### 4. 学級経営における安心感の醸成

「ここにいてもいいよ」というメッセージが、すべての土台となる最も大切な言葉である。学級開きの初日に机が足りなかったり、ロッカーが用意されていなかったりしたら子どもは不安になるだろう。安全・安心な居場所作りが不可欠である。以下は、安心感を伝えるための3つの方法である。

◎事実承認（キャリブレーション）：相手の様子をよく観察し、「真剣に話を聞いているね」など、気づいた事実をそのまま伝える。信頼関係の土台となる。

◎自己開示：教員が多くの自己情報を開示することで（例：20個の好きなものや趣味等を話す）、子どもとの共通点を見つけ、親近感や安心感を生み出す。

◎感謝の表明：配布物を渡す際に「はい、どうぞ」「ありがとう」と言うなど、「ありがとう」の文化を作る。当たり前の行為に対しても感謝を伝える教員の姿勢が重要。

### 5. 小さな行動が心を作り、学級を安定させる

一つの小さな乱れ（割れ窓）を放置すると問題が拡大する。また、1つの大きな事故の背景には29の軽微な事故と300のヒヤリとする出来事がある。いわゆる「割れ窓理論」と「ヒヤリハットの法則」である。いずれも早期対応の大切さを説いている。

「まあいいや」という妥協を放置しないことが重要で、机の向きの乱れ、汚い字、落とし物など、教室の小さな乱れに目を向けることが、子どもの成長を促し、学級崩壊を防ぐ。

「静」と「動」のバランスも考えたい。対話的な活動（動）ばかりでは集中力が続かず、静的な活動（静）ばかりでは疲弊する。朝の会の対話（動）の後に読書（静）、体育（動）の後に図工（静）など、1日の時間割を意図的にデザインすることで、子どもたちの集中力を維持し、安定した生活を送れるようにする。

### 6. 教員の役割と多様な子どもたちへの関わり

教員は教室最大の環境である。教員の人柄や発する言葉がクラスの雰囲気や決定づける。困難な時期（N字曲線）は必ず訪れるが、教員が諦めない姿勢を持つことで乗り越え、クラス独自の文化が生まれる。子どもの背景を理解し、「奥の思いを聞く」という対話の姿勢はどの学校でも共通して重要である。お互いに頑張りましょう!

☆次回の学習会は南部支部青年部&NEXT! 「特別専科教諭・人事評価制度」

@5月7日(木) 18:30~阿倍野市民学習センター 特別会議室



## 「食育の充実のために」栄養教職員部全体集会

3月19日、大阪市教育会館において、栄養教職員部全体集会を開催し17人の参加がありました。

藤澤部長からの挨拶の後、小西事務長からは、学校給食調理業務の民間委託実施校について、親子方式について、令和8年度人事について、牛乳パックのストローレスについて、食物アレルギーのシステム化についての経過報告がありました。その後、グループに分かれて職務に関わる様々な課題について意見交流を行いました。食物アレルギーのシステム化に対する不安や試行期間での不具合など、日々の業務の中での具体的な意見があがり、短い時間ではありましたが、様々な課題を共有することができました。結集することの大切さを確認した実りある全体集会となりました。



## 「学校と地域の連携を！」E-com おおさか交渉



大阪市教育活動ネットワーク（E-com おおさか）が3月6日、大阪市・市教委との教育交渉を行いました。今回の交渉では大阪市が進める学校選択制によって、ある学校では70人もの子どもたちが他校を選び、また新年度の入学者が「ゼロ」になる可能性

もある学校が存在することが明らかになりました。市教委は小規模校ほど通学区域外への就学率が高くなる傾向があるとし、学校独自の努力だけでは解決が困難な課題に対しては、区と連携して重点的な支援をおこなうと回答しました。

現場からは、学校選択制によって地域のコミュニティの中心としての学校の存在が脅かされていることや、全国学テの結果公表による学校の序列化、学校統廃合、校区に同和地区を含む学校への忌避意識といった問題が指摘されました。

さらにいわゆる「働き方改革」が学校と地域の連携と共存できる関係の妨げにならないようにするための工夫や、子どもたちへの性被害の防止対策、外国人児童の増加に対する取り組みなど、学校現場の努力だけでは解決しえない多岐におよぶ課題を訴え、今後も双方が協議を重ねていくことを確認しました。

大阪市教育活動ネットワーク（E-com おおさか）が3月6日、大阪市・市教委との教育交渉を行いました。今回の交渉では大阪市が進める学校選択制によって、ある学校では70人もの子どもたちが他校を選び、また新年度の入学者が「ゼロ」になる可能性

◇市教組元執行委員長の矢野久雄さんが3月25日にご逝去されました。  
市教組運動を長きにわたって牽引された矢野さんのご冥福をお祈りいたします。

## 3・21「とめよう！戦争・めざそう！アジアの平和」

3月21日、毎年恒例の反戦平和集会がエルおおさかで開催されました。今回は名古屋学院大学教授の飯島滋明さんと、沖縄大学教授/参議院議員の高良沙哉さんを講師にお招きし、「どうなる？どうする？外交・防衛政策と沖縄」というテーマでご講演いただきました。

飯島さんは「日本は専守防衛から他国攻撃可能な軍力へと方針を転換した。長射程ミサイルや空母の保有、南西諸島への部隊配備が進み、防衛費もGDP比2%へ倍増。一方で、軍備増強は相手国の警戒を招き、紛争や国民生活への影響をもたらすリスクも指摘されている。憲法改正やスパイ防止法の動きは、国民の権利制限や徴兵制導入の懸念を生み、地位協定の不平等にも改めて向き合う必要がある」と語られました。



高良さんは「安全保障政策が社会的信任を得るには、具体的な退避計画や戦後補償の設計が不可欠だ」と語った。住民被害を隠す政策は正統性を損ない、避難行動も阻害すると指摘。軍拡は抑止の名の下に緊張を高め、非核三原則の例外化や台湾有事を巡る強硬発言は危機管理を困難にすると警鐘を鳴らしました。また、「防衛強化」が地域のリスク負担を軽視し、住民合意を侵食する構造にも触れ、「中央政府だけ

でなく、市民による監視とブレーキが必要である」と強調しました。

集会の終わりに高校生平和大使からの活動報告とカンパの要請があり、「微力ではあるが無力ではない」との力強い決意に参加者から大きな拍手を受けていたことが印象的でした。

### <第97回大阪地方メーデー>

◇5月1日（金）10時～ @大阪城公園 太陽の広場 野球場内

### <輝け憲法！～平和といのちと人権を！～おおさか総がかり集会>

◇5月3日（日）13:40～ @扇町公園

和太鼓演奏、前川喜平さん（元文部科学事務次官）スピーチ他

### 【広報部メモ】

新年度が始まった！学習活動の準備等とても忙しい時期。私自身、昨年度を振り返ると、執行委員1年目として、各種学習会や教育委員会との交渉などに参加して多くの学びがあった。

市教委との交渉では、タブレットPCの管理が個々の教職員任せになり、たくさんの残業が発生していること、それを解消するために早急に端末を管理する職員を配置してもらうことを訴えた。これから始まる新しい一年の中で、多くの人と関わり、支え合い、励まし合いながら過ごし、共に困難を乗り越えていきたい。そのことを通して、新しく出会う人が一人でも多く組合員となり、たくさんの仲間が増えればうれしい限りである。 O.H